



笑顔とやる気いっぱいの中 生徒自らが常に鍛え続ける中

七中だより



第 8 号 中野区立第七中学校《学校だより》

平成29年 12月12日

URL <http://homepage3.nifty.com/nk-7-j/>

TEL 03-3389-4171

周年行事、無事終了

校長 池田 俊一

当日は、少し肌寒い体育館となりましたが、開校70周年記念式典および祝賀会が無事終了することができました。ご支援ご協力をいただきました多くの方々にご報告申し上げるとともにお礼を述べさせていただきます。ありがとうございました。

式典では、中野区長、田中大輔様をはじめ120名を越える参列の方々があり生徒と合わせて約400名で祝うことができました。沢山の方々のご祝辞をいただき身の引き締まる思いでした。そして、式典の終わった後に、多くの方々からお褒めの言葉をいただきました。「生徒の皆さんの規律ある堂々とした態度に深く感動した。」「日本の未来に明るい光を見出したような思いだった。」と言ってくくださる方もおり嬉しい限りでした。また、後日お会いした方から、「D組の合唱の時に、座っている男子のなかにさかんに目をこする生徒がいる、注意して見たら、感極まって泣いているのだとわかり自分も胸を熱くした。」といったお話も聞きました。確かにD組の頑張りはずごかった、そしてそれを感じとれる生徒が育っている事を褒められ大変うれしかったです。

式典では、休憩をはさみ、「同窓生講話」がありました。この土地に生きてこられた先輩の話は、生徒の皆さんにもすんなりと入ったようでした。穏やかな話し方は、聞く側の緊張をほぐし、引き込まれるのが自分でも分かるものでした。巻頭言の後に



第5期卒業生「笹川五郎」様の原稿を載せさせていただきます。ステージの優しい笑顔を思い出しながら読んでください。

また、私が嬉しかったことは、校長室の壁の飾られている『校歌の額』の筆者がわかったことです。この額の文字は、記念誌の表紙裏に掲載があります。落款（らっかん＝書画に筆者が自筆で署名し、または印を押すこと。また、その署名や印。：広辞苑）が読み取れず、分からないままですと過ぎてきましたが、筆者本人が周年に来られ、校長室で話しているうちに「私が書いたんだよ」となり、びっくりいたしました。筆者は、第8代校長 原口盛次先生でした。先生は昭和59年から平成元年まで5年間お勤めいただき現在89歳になられたと話していらっしゃいました。現在の七中をご覧になり本当に嬉しそうななさってました。

落款についてです。「栞峯書」とあり「そうほうしょ」と読みます。くわの字は、「栞」と言う旧字体で書かれています。落款の言われは、原口先生の書道の恩師が、落款を決めてくださったとき、原口先生の出身の村の名前から「栞」の字を取ったのではないかと語っている。また、中国では日本を「扶桑の国」と呼びそこからかもしれない。詳しく聞いておけばよかったとも先生は言っていました。是非いつでもどなたでも校長室に見に来てください。



式典を1週間過ぎた27日(月)には、「纏」のミニチュアの寄贈がありました。祝賀会の手締めをお引き受けくださいました江戸消防記念会 第9区副総代 深野宗一様の親戚にあたる深野直美様からいただきました。お手製で第七中学校の校章や名称も入っている立派なものです。これで学校も火災事故から厚く守られると嬉しい限りです。こちらも学校にお越しの際にはみていただきたいと思います。



D組合唱発表



同窓生講話

第5期卒業生 笹川 五郎氏

○地域の様子

こんにちは、私は五期卒業生の笹川です。本日は開校70周年、まことにおめでとうございます。

70年前はどんな地域だったか。昭和25年の中野区の人口は10万人です。(現在は33万人)七中に隣接する地域は江古田小学校を中心に、中野国立療養所、東福寺、氷川神社が中心に商店が連なり、町づくりが始まりました。そして沼袋駅の方へと発展していきました。

中野区立第七中学校は、江古田小学校の片隅に昭和22年4月に設立され、23年春に開校しました。初代校長は花岡肇先生でした。おかげで江古田小学校は教室不足になり、4年生以下の生徒は午前と午後に分かれて2部授業でした。昭和25年に現在の位置に中野区立第七中学校が新校として開校しました。校庭は2面あり、新青梅街道の南側の現在スーパーの所もグラウンドでした。クラスは60名で給食はありませんでした。

○中学時代の様子

その当時は中学卒業生の過半数が進学し、半数がいろんな職業に就職した時代でした。生活するのがいっぱいいいの家庭が多く、中学卒で月給は、一か月で3,800円から5,000円位でした。先生方のお給料は12,800円位でした。中学時代を振り返ると楽しかった事ばかり浮かんできます。

クラブ活動、マラソン大会、体育祭、文化祭、先生からの愛のごほうび、廊下に立たされたり、ゲンコツのあめ玉をもらったり、ビンタのプレゼントなどいただきました。今では楽しい思い出の一つです。お世話になった先生にお会いしたいです。きっともうすぐ会えると思います（笑）

中学2年になる頃には、自分たちの将来について仲間達と話し合うようになり、私は進学し大学に行くぞ、私は美容師になりたい、僕は家業を継ぎ米屋、ラーメン屋、それぞれの人生論が飛びかいました。

昭和20年、敗戦により、私は台湾から引きあげて参りました。江古田小学校へ入学、一年生でした。戦争はとても辛いものです。無差別に攻撃をうけ、破壊され、戦争は二度としてはいけないと思います。

当時、お米は配給制で、食べ物は少なく、千葉県や茨城県の方へ買い出しに行ったものです。戦争の体験は二度としたくありません。どんなに苦しくとも、自分に負けてはいけません。中学時代は一番大切な時期だと思いますよ。自分のこれからの人生について考える時かもしれません。学校を選び、技術を身につけ独立し自営する事を考えてみてください。日本の人口も10年で一千万ずつ減少するといわれています。楽しい人生を送れるよう、七十年、八十年先を見据えて健康で社会に貢献し、明るい家庭を築きましょう。今日あるのは両親、家族、先生方のお蔭です。自分の思った目標に向かって挑戦し、努力を重ね、諦めずに頑張ってください。

人生何と言っても、一番大切なのは健康だと思います。これから先、百年生きる人生、この度タクシー内で暴力をふるった弁護士、相撲界が起こした暴力事件、神奈川県9人殺害事件みなさんはどう思いますか。私は父から教えられた言葉があります。

○ 武道を通じて礼儀、心技体の指導を受けました。人に厳しく接すれば厳しく返ってくる。人に優しく接すれば優しく返ってくる

○ 食事をする。スポーツする。勉強する。

こぶし、みなさん、手を開いてみてください。親指が父親で小指が母親、そして兄弟、姉妹の指で何をするのも一緒です。その大切な指が他人の物に延びたらどうなるのでしょうか。そんな事があつたら家族全員が悲しい人生になる事をしっかりと心に刻んでください。

話しは変わりますが、2年C組の榊田さん七中便りを届けてくれてありがとう。いつも、インターフォンを押して手渡してくれてとても嬉しいです。

校長先生が校歌について絶賛しています。「わかば、わかきわれらここに集いてぐんぐん育たん」とたくましい子供の成長をたたえています。こぶしをひろげて美しい美しいわかばになってゆく時代が中学生だと考えた。

在校生のみなさん七中の応援歌を知っていますか。

応援歌

「七中健児の意気を持って、ふるえふるえいざふるえ、実力試すはこの時ぞ、日頃の技を示すなば、武蔵野台の七中へ、勝利の栄冠上がるなり」

中学生は義務教育で英才教育ではない、人間形成が目的である。よく運動し、よく遊び、心を打ち明け、と校歌が語っています。

目標に向かって、健康に注意し、何事にもあきらめず頑張ってください。七中ここにあり。

七中を心のふるさと言える中学校生活を送ってください。（講話 了）



開校70周年を祝う会会長 木村輝之様